

効果的な引継による 系統性のある教育支援について

発達障害の可能性のある
児童生徒等に対する支援事業

兵庫県教育委員会

兵庫県の概要 ①

人口	約552万人
面積	8,400km ²
市町数	41市町



竹田城と雲海(朝来市)



世界遺産姫路城(姫路市)



丹波篠山デカンショ祭(篠山市)



人形浄瑠璃(南あわじ市)



淡路



ハーバーランド(神戸市)

兵庫県概要 ②

兵庫県立

高等学校

137校

中等教育学校

1校

特別支援学校

26校



兵庫県内

41市町

公立小学校

758校

公立中学校

343校

義務教育学校

1校



兵庫県の取組

- 平成26年3月、「兵庫県特別支援教育第二次推進計画」の策定。
- 4つの柱によって構成された計画
 - ①一人一人の多様な教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実
 - ②すべての教職員の特別支援教育に関する専門性の向上
 - ③早期から支えつなぐ相談・支援体制づくり
 - ④特別支援教育を充実させるための教育環境整備の推進

兵庫県の取組

- 推進計画の第3の柱である「早期から支えつなぐ相談・支援体制」では、異校種間での継続的な支援が課題とされた。
- 各教育事務所に特別支援教育推進員を配置し、就学先決定に関し、市町教育委員会への指導助言を行っている。
- 個別の教育支援計画等を引き継ぐことの重要性をリーフレットで理解啓発している。
- さらに、平成27年度、これまでから就学に関する支援に積極的に取り組んできた小野市において、就学前から小学校への移行期に関する引継ぎのモデル研究を実施した。

兵庫県の取組

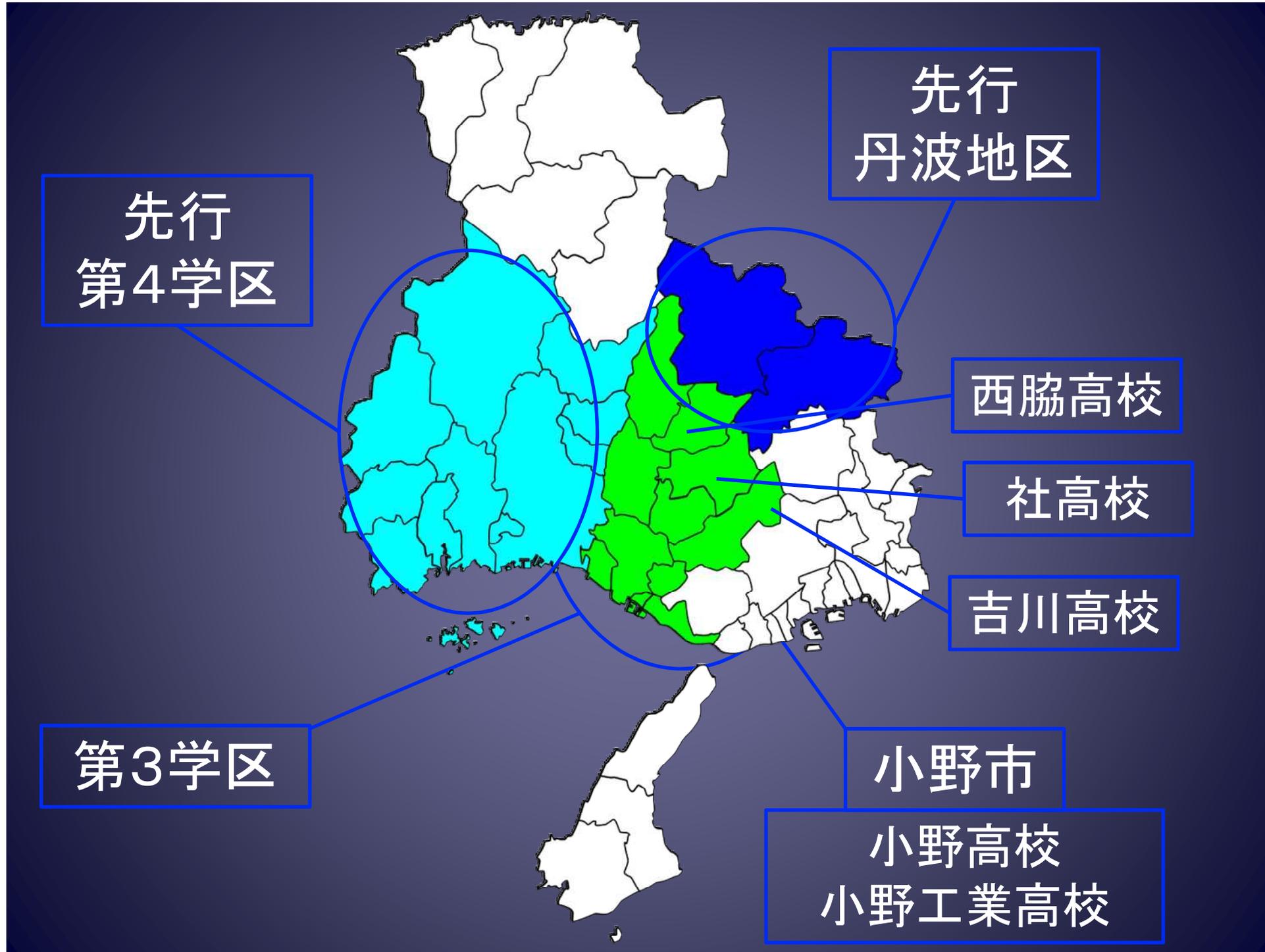
- 今年度は、小学校から中学校への移行期の引継ぎについて、前年度の成果を踏まえ、小野市の小・中学校でモデル研究している。
- 更に、中学校から高等学校への引継ぎについては、小野市の中学校から進学する第3学区で、小野市内にある高等学校2校と、小野市近辺でこれまでに個別の教育支援計画等の引継ぎ実績のあった高等学校3校を中心としてモデル研究している。

中学校から高等学校への引継ぎ

- 県下には既に中学校から高等学校への引継ぎのシステムを設けた地区があり、そこでの取組を先行事例として活用し、本事業運営委員会で、中・高引継ぎのガイドラインや連携シートのモデル案を取りまとめた。
- その上で、モデル地域である小野市と、高等学校モデル校5校が所属する第3学区で、平成29年度進学引継ぎについて、第3学区全体でガイドラインや連携シートのモデル案を活用し、その効果や改善点について検証する。

高等学校モデル校

- **小野高等学校**
全日制普通科(自然科学系)、商業科、国際経済科
- **小野工業高等学校**
全日制機械科、金属工業科、電子科、生活創造科
定時制機械科
- **西脇高等学校**
全日制普通科、生活情報科
- **吉川高等学校**
全日制普通科
- **社高等学校**
全日制普通科、体育科、生活科学科



中学校から高等学校への支援継続のための引継ぎのガイドライン(案)

- 本事業運営協議会において、学識経験者及び代表校長、学校間連携コーディネーター等からの意見を踏まえ、案を作成した。
- 対象生徒、引継ぎ時期、引継ぎ先、引継ぎ内容を明確に示す機能がある。
- 障害等により特別な支援が必要で、保護者等の同意がある生徒について、高等学校合格発表後速やかに、中学校から高等学校に、中・高連携シート等を持参して対面して引き継ぐような案としている。

中学校・高等学校連携シート(案)

- ガイドラインと同様に、事業運営協議会における意見等を踏まえて取りまとめた。
- 個別の教育支援計画・個別の指導計画・サポートファイルが作成されていない生徒であっても、中学校までの支援を高等学校に引き継ぐ必要がある生徒がいることを想定して、案としている。

本事業から得られるもの

- 移行期においても、継続が必要な指導・支援に関する情報を、実際に引き継ぐことで、対象児童生徒にとって有益となる経験を、送り出す側も受け取る側も実感すること。
- 特に中学校から高等学校への移行期は、入学者選抜があるため、「不利になる」と考えがちであるが、実際の進学にあたっては、高等学校側は積極的に情報を得ようとしており、不利になることはないことを実感すること。

本事業から得られるもの

- 特に小野市においては、平成27年度での就学前から小学校への引継ぎに加えて、小学校から中学校、中学校から高等学校への引継ぎのあり方をモデル研究できることから、「兵庫県特別支援教育第二次推進計画」の第3の柱「早期から支えつなぐ相談・支援体制づくり」に関して、系統性のある総合的なモデルが示せること。



お o n o の

連携で支えつなく、切れ目のない
きめ細やかな継続支援



小野市の概要



- 面積 93.84km²
- 人口 49,521人
- 小学校 8校 2,913人
- 中学校 4校 1,466人
- 特別支援学校(市立) 1校
- 高等学校 2校(県立)
- 幼稚園 2園(公立)
- 保育所 14園(私立)
- 各学年 約430~515人
- 教職員 321名

小野市の概要



夢と希望の教育



脳科学 と教育

小野市教育行政顧問
東北大学教授
川島 隆太氏



小野市の小中一貫教育

河合中学校区 小学6年生を 中学校舎へ	小野南中学校区
旭丘中学校区	小野中学校区

併設型小中一貫教育



おの検定

関係課によるビジョンの共有

人の連携を活かした、
よりよい地域システムづくり



平成27年度早期からの
教育相談・支援体制構築事業



平成28年度発達障害の可能性の
ある児童生徒等に対する支援事業

小野市発達支援室



療育(個別・グループ)
個別相談
発達検査
学校や園等との連携
ケースカンファレンス



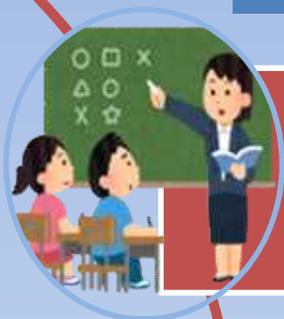
発達支援コーディネーター

臨床心理士
特別支援教育士
教育カウンセラー
臨床発達心理士

平成25年4月～

**心理相談
カウンセリング**

発達支援室を核にした ボトムアップによる移行支援



アセスメントに基づく具体的な支援



ニーズに応じた相談支援



継続した相談支援

発達障害の可能性のある児童生徒等に対する支援事業



小野市教育委員会

発達支援室を核にした移行支援の取り組み



就学前から高等学校へ、切れ目のない、きめ細やかな支援体制の構築
個別の教育支援計画・個別の指導計画・引き継シートによる継続支援

連携組織図

発達障害の可能性のある児童生徒に対する支援事業

小野市教育委員会-H28

保幼小中高連携

小野市 発達支援室

(小野市福祉総合支援センター内)

発達相談窓口

小野市全体で支援します!

小野市発達障がい児支援連絡会

各関係機関における取組状況等の情報交換

発達障害児の早期発見、早期支援の推進

発達障害児支援に係る研修会の実施

中高連絡会議

・中、高特C○による支援・引継ぎ状況の確認

特C○移行支援グループ

・各校の支援状況確認
・引継ぎシートの検討

地域支援システムの構築

・保育所、幼稚園、小・中・高・特別支援学校・関係機関関係者の参加
・情報交換、連携強化、支援体制の検討

発達支援 コーディネーター

(学校間連携コーディネーター)

切れ目のない
きめ細やかな
継続支援

専門機関で支援します!

発達障害支援事業

支援が必要な幼児児童生徒の相談

具体的な支援内容や方法の検討

早期の発達支援・専門的支援・継続支援

個別療育

・アセスメント
・発達検査の実施
・療育指導の実施

ひらがな聴写テスト

・全小学2年生に年2回実施
・特殊音節を含む聞き取りテスト
・評価分析し、担任へアドバイス

中学校・高等学校巡回相談

・支援が必要な生徒の状況把握
・引継ぎ状況の確認

進学相談会

・中学3年生保護者に対する個別の相談会
・進学先への引継ぎ

特別支援コーディネーターの連携

連携

連携

兵庫県教育委員会の支援

就学のための
連携会議
・就学のための
保幼小連携
・小中高連携
・関係機関との
連携

連携

個別の教育支援計画・個別の指導計画・引継ぎシートによる継続支援!

高校
西脇高校

高校
社高校

高校
吉川高校

高校
小野高校

高校
小野工業高校

早期継続支援
事業運営協議会
・引継ぎシート
・ガイドライン
・引継ぎ状況
の確認

アセスメントに基づく具体的な支援①

ひらがな聴写テスト(H26～)

全小学2年生を対象にしたアセスメント

6月 実施



2月 実施

30	29	28	27	26	25	24	23
い	い	い	い	い	い	い	い
う	う	う	う	う	う	う	う
え	え	え	え	え	え	え	え
お	お	お	お	お	お	お	お
か	か	か	か	か	か	か	か
き	き	き	き	き	き	き	き
く	く	く	く	く	く	く	く
こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ
け	け	け	け	け	け	け	け
こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ
け	け	け	け	け	け	け	け
こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ
け	け	け	け	け	け	け	け

30	29	28	27	26	25	24	23
い	い	い	い	い	い	い	い
う	う	う	う	う	う	う	う
え	え	え	え	え	え	え	え
お	お	お	お	お	お	お	お
か	か	か	か	か	か	か	か
き	き	き	き	き	き	き	き
く	く	く	く	く	く	く	く
こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ
け	け	け	け	け	け	け	け
こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ
け	け	け	け	け	け	け	け
こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ
け	け	け	け	け	け	け	け

小学2年生担任へのコンサルテーション

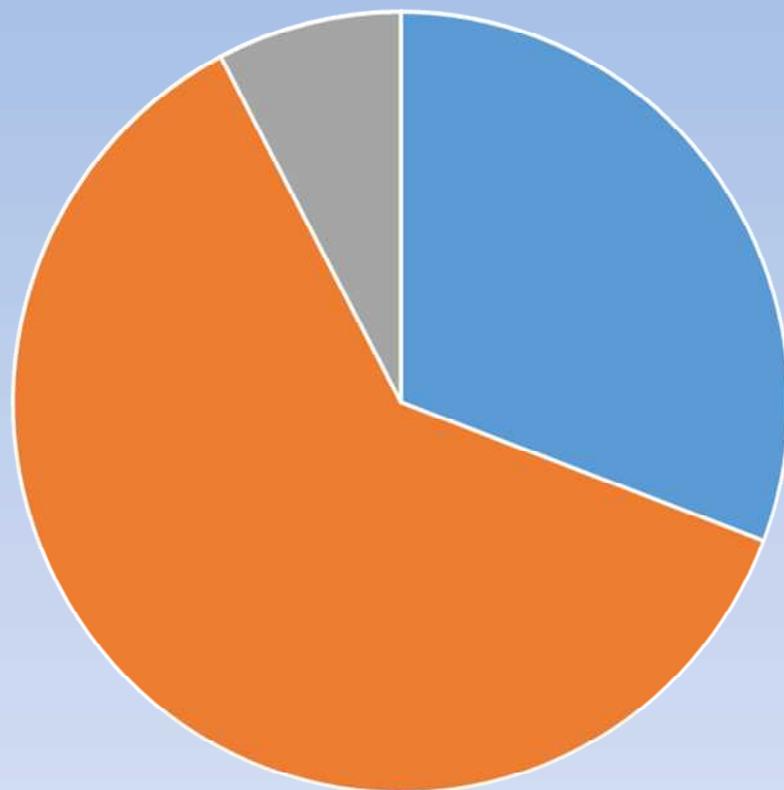
ひらがな聴写テスト後の指導

子どもの見方や指導方法の変化

子どもたちがどのようなところでつまずき、困っているのかがわかった。
聞いて書くことが得意な子とそうでない子がわかり、個別の机間指導に役立てることができた。
聞いて書く活動や視写を取り入れた。
音読を国語の時間に必ず取り入れた。
朝タイムで特殊音節のプリントに取り組んだ。



ひらがな聴写テストの後の指導



- 工夫した
- 少し工夫した
- どちらともいえない
- あまり工夫していない
- 工夫していない

アセスメントに基づく具体的な支援②

ユニバーサルデザインの授業づくり



授業

専門家による実態把握

研究協議

名前	児童生徒の実態	予想される困難さ	指導の手だて
A児			
B児			

個別支援シートの記入(全員分)



ユニバーサルデザインの授業づくり成果

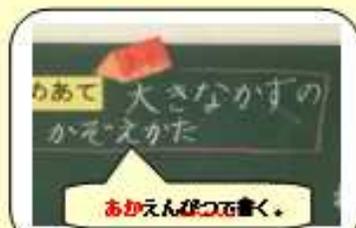
子どもの見方や指導方法の変化

- ・授業づくりのポイントが理解できた。
- ・支援を要する児童への手だての共有化を図ることができた。
- ・担任が子ども特性と支援を学ぶことができた。
- ・子どもの行動の背景が理解できた。
- ・明日からの授業改善につなげる。
- ・個別の支援シートの記入により、事前に子どもの実態把握ができた。



ユニバーサルデザインの授業づくりリフレット

5 指示の出し方



わかりやすく・明確な指示

- ①「今から〇〇について話をします。」(手合)
 - ②「3つ話をします。1つ→2つ→3つ→」
 - ③「質問は最後に聞きます。
最後まで聞きましょう。」
- 声のトーンをかえ、「ゆっくりと、おたやかに、語り掛けるように」話しましょう。

視覚情報を活用した指示

- 教師自身が最も重要な学習環境です。具体的で簡潔かつ丁寧な言葉を使って言語環境を整えることは、児童生徒の「わかりやすさ」の基本となります。
- 「しっかり」「ちゃんと」などの曖昧な言い回しは避け絵図や具体物を含めましょう。



6 集中・注目のさせ方



興味を引き付ける教材の工夫

- 見えないものを「見える化」して提示する。視覚、聴覚、触覚等、多感覚教材を活用しましょう。

気持ちのサークル「角丸型」

教師の立ち位置、合図の統一

- ①注意を促す指示や合図を決めましょう。(教師の立ち位置、ハンドサイン)
- ②ルール化しましょう。(手の位置、姿勢、話し手に体を向ける)
- ③手本を示し、児童が自主的に注目した時を逃さずに促しましょう。



体育や集会、屋外での活動時仗、つま先、ひざを話し手に向かせると、(ルールの歌姫)

みんながわかって
できる喜びが実感できる
授業をめざして



ユニバーサルデザインの授業づくりポイント VOL 1

『特別支援教育は、障がいの有無にかかわらず、支援の必要なすべての子どもたちが在籍する全ての学校において実施されるものである。…』

「特別支援教育の推進について(通知) 特別支援教育の理念より」文科省 2007
子どもたち一人一人の異質やニーズを把握し、教育的ニーズに応じた指導や支援を行うことが、今現在、教育にかかわるすべての教師に求められています。

特別支援教育の充実に向けて、教師自身の意識改革や専門性の向上が必要になっています。教師の専門性の一つとして、学級経営力と授業力をもつこと、つまり、一人一人の個性を認め、安心して過ごせる学級をつくることと、学び方の違いを理解して子どもたちが「わかる、できる、楽しい」と感じる授業を工夫していく必要があります。

小野市教育委員会

1 場の構造化



片付け方の写真

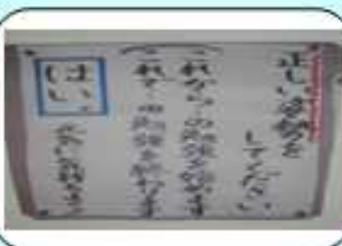
道具の整理整頓・管理

○片付けの仕方を写真で示すことで、道具の取や収納の仕方を、一目で確認することができます。

○机ごとに一つのかごに収納することで、片付けの時間が短縮され、作業時間が確保できます。

前面に掲示が必要な情報のみ

○児童の注意をそらしたり、大切な情報をわかりにくくしたりする余分な刺激(情報)を取り除き、必要な情報に集中できるわかりやすい教室環境をつくる必要があります。



授業中の約束や構えの掲示

○授業の始まりと終わりは、姿勢を意識させ区切りをつけましょう。

○発表の仕方、話の聞き方は、学習するときの共通の約束として、常に振り返るように掲示しておきましょう。

3 ルールの確立

みんなで共有する手立ての提示

○集団生活に於いて適切な行動を示し、具体的にどのように振る舞えばよいのかを示しましょう。

○その場その時の状況に応じた適切な対応が苦手な子どもも、安心して学習や生活を行うことができるように、見本を示しましょう。



靴の並びと色違いをそろえる。

“一人一人の良さに目を向けましょう”

“子どもの困りや行動の背景を探りましょう”

“必要なこと、できることから、まず、始めましょう!”



2 刺激への配慮

スピーカーに布をまいて音が響かないようにする。



集中して学習できる座席の配置

○どんな環境で集中できるのか、落ち着いて学習できるのか把握しましょう。

前列、先生の近く、窓際、最後方等、本人とも相談すると良いでしょう。

視覚刺激の軽減

○集中しやすく、落ち着いて学習に取り組みやすい環境にするには、教室の刺激の量を減らしましょう。

○障子は、落ち着いた色のカーテンで目かくししましょう。



手順・行程・内容の明示

○授業のめあてや流れを明示しパターン化することで、見通しを持って授業に臨むことができ、主体的な学習が期待できます。

○学習活動の始まりと終わりを明確に示し、いつまでに何をするのか、どこまでやれば終わりなのかなど、具体的に示すことで集中が持続しやすくなります。

4 生活の見通し

1日の予定の掲示

○一日のスケジュール(テストや臨時の活動)、一週間の予定などを掲示しましょう。

○児童も教師も確認でき、変更にも対応しやすくなります。



アセスメントに基づく具体的な支援③

おの検定の基本的な内容

受検対象者 全小・中学生

受検場所 各小・中学校

検定実施回数 小学校3回 中学校4回

テスト内容 漢字・計算・英語

合格点 8割(80点)

再チャレンジ 80点に満たない場合

学習支援員の派遣 個別支援

小中一貫した学習システム

学校・家庭

テキストを活用して学習

学校

おの検定を受験

市教委

採点・分析

市教委

認定証発行
間違いランキング集発行



学校

学習支援



おの検定を通した小中一貫の成果

小中学校
それぞれの
成果

- ◆基礎基本の定着
- ◆学習意欲の向上
- ◆家庭学習の充実
- ◆保護者の協力
- ◆つまずきの発見
- ◆個別指導の充実

おの検定によって
9か年を通して子どもを育てるという
教職員の意識の土台づくりができた！

ニーズに応じた相談支援①

巡回相談

小学校

- ・ 小学1年生の授業参観
- ・ ひらがな聴写テスト後のコンサルテーション
- ・ 専門家による個々の実態把握

授業づくり
学級づくり

中学校

- ・ 特別支援Co、管理職との情報交換
- ・ 専門家による個々の実態把握

特Co
移行支援
研修

高校

- ・ 特別支援Co、管理職、養護教諭との情報交換

中高連携
会議
の開催

ニーズに応じた相談支援②

進学相談会の開催

中学3年生保護者対象 (個別相談) 

進学相談会

小野市教育委員会

高等学校では、小中学校と違った環境での学校生活が始まります。入学後、新しい出会いや初めて経験する授業など、高校生活に期待が膨らむ一方で、不安や戸惑いを感じることもあります。進学相談会では、進学前にお子さんの気になる状況について話し、お子さんが充実した高校生活を送ることができるよう、小野市発達支援室の発達支援コーディネーターがアドバイスをします。

期日 第1回 平成28年11月22日(火)

① 13:00~14:00 受付 303号室
② 14:15~15:15
③ 15:30~16:30

第2回 平成28年12月15日(木)

① 9:30~10:30 受付 306号室
② 10:45~11:45
③ 13:00~14:00
④ 14:15~15:15
⑤ 15:30~16:30

相談内容 ・教科によって極端な学力の偏りがある。
・コミュニケーションが苦手で、人間関係がうまく築けない。
・落ち着きがなく、気が散りやすい・失敗が多い。

場所 コミセンおの **対象** 中学3年生保護者

相談者 小野市発達支援室 発達支援コーディネーター
※臨床心理士・特別支援教育士 

申込み 小野市発達支援室
TEL 0794-63-1000 (内)840, 841
※希望の日時を電話で連絡。先着順。

【開催日】11月～3月(月1回)

【対象】中学3年生保護者

【相談内容】

- ・志望校の選択について
- ・進学後の学校生活等

【相談者】

発達支援コーディネーター

入学前に高校へ引継ぎ
入学後の巡回相談

つなぐためのシステム①

就学のための連携会議

保育園
幼稚園

- ・ 特別支援教育コーディネーター
- ・ 担任・園長

小学校

- ・ 特別支援教育コーディネーター
- ・ 就学のための連携委員
- ・ 通級指導担当教員

中学校

- ・ 特別支援教育コーディネーター
- ・ 就学のための連携委員
- ・ 通級指導担当教員

引継ぎシート

引継ぎシート

つなぐためのシステム②

中高連携連絡会議①



今まで知らなかった
学校の現状を知
ることができ有意義
だった。

【参加者】

- ・中学校 特別支援教育Co
進路担当者・校長
- ・高校 特別支援教育Co

【協議内容】

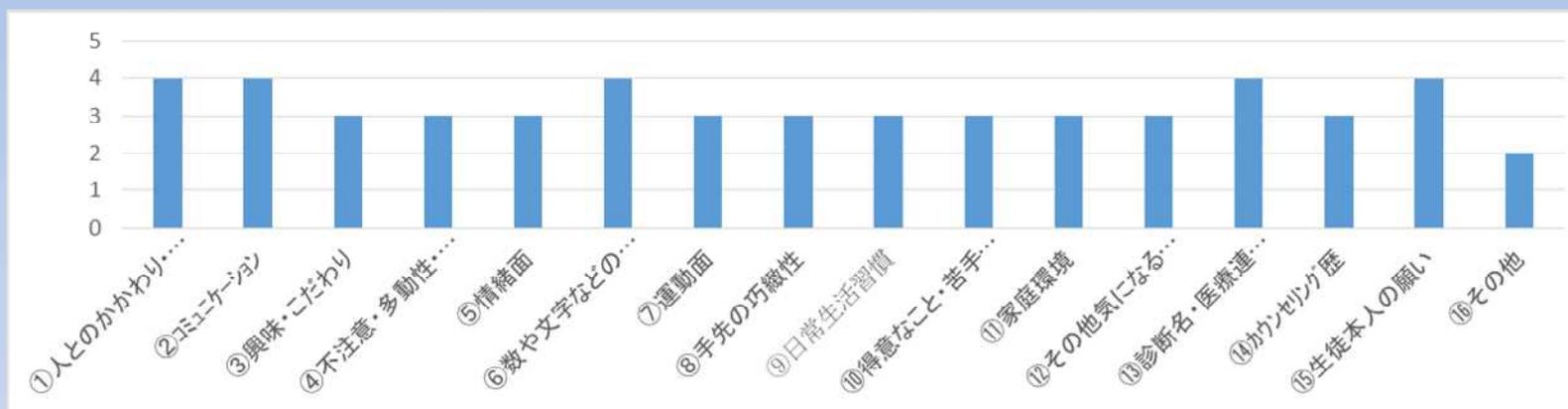
「特別な支援が必要な生徒等
について、中学校から高校へ
の支援の移行をスムーズにする
ためには」

つなぐためのツール①

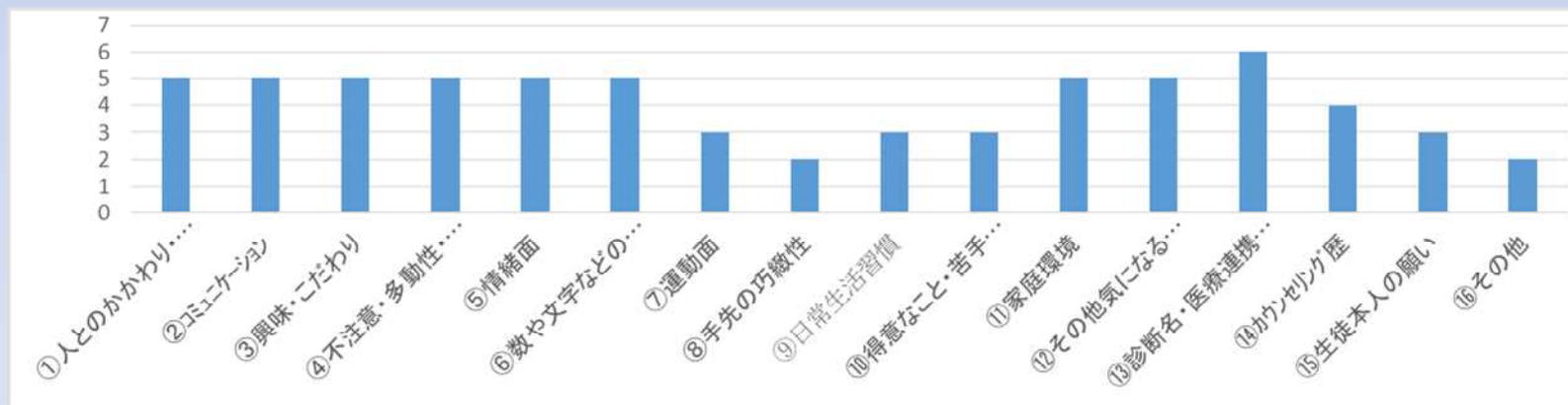
中高連携連絡会議② 早期・継続支援に係るアンケート

中学校から高校へ引き継ぎたい内容

中学校



高校



中学校から高校へ引き継ぎたい内容はほぼ共通

つなぐためのツール②

中高連携連絡会議③ 引継ぎシートの検討

小野市版

北播磨版

播磨東版

修正後、播磨東管内において今年度から運用

特Co移行支援グループで再度検討

- ・チェック項目があり、記入しやすさがある。
- ・項目ごとに特記事項と配慮が記入してあるので見やすい
- ・生徒についての基本情報がすぐに分かってよい。
- ・手帳の有無、サポートファイルの有無があればいいが。

継続した相談支援

高校進学前後 学校間連携コーディネーターによる継続支援

巡回相談
(特Co・担任)

個別相談
(本人・保護者)

学校生活
支援シート
の活用

校務支援システムの導入

小中一貫教育に係る情報管理システム

個別の教育
支援計画

個別指導計画

引継ぎシート

継続支援

就学前から高校へ、切れ目のない、
きめ細やかな支援体制の構築

成果

- アセスメントによる具体的な支援により、授業改善が進んだ。
- 巡回相談により、中学校・高校のニーズを把握し、中高連携連絡会議の開催へつながった。
- 中高連携連絡会議により、中学校と高校との理解が進み、連携のあり方を共通理解することができた。
- 進学相談会の開催により、保護者への情報提供と保護者の願いに寄り添った支援をすることができた。→次年度、月1回の定期開催へ。

課題

- ・進学先への引継ぎの有効性について、本人・保護者・教職員の理解推進。
- ・ガイドラインによる引継ぎシートを活用した引継ぎ。
- ・保幼小中→高校へ継続的な本人・保護者支援。
- ・合理的配慮に基づく保護者同意の促進。

今後の方向性

- ・兵庫県教育委員会と連携しガイドライン、引継ぎシートの確実な運用を目指す。
- ・中学校との連携連絡会の定期開催。
- ・保・幼・小・中・高から就労まで切れ目のない支援体制の構築。



ご清聴ありがとうございました

